

Ohmi Net

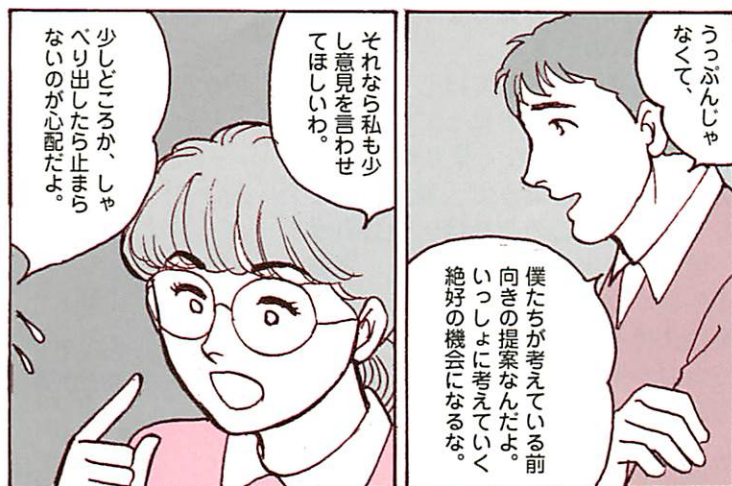
あうみネット

あうみネット

Communication Paper for Voluntary Network in Ohmi

人と人を結ぶ♥ 作 杉尾尚子
ネットストーリー

“NPOの政策への参加”編



シリーズ～NPOへの素朴な疑問～<第6回>

企業の社会的責任と社会貢献

市民&企業&行政ネット

め・と・て・とねっと

株式会社マルダイ石鹸本舗

「ものづくり」をする人間なら、最初から最後まで責任を持つのがごく当たり前のことだと思います。

あうみネット リレーエッセイ

トピックス

NPOと政策提言

スポットライト

私たちががんばってます!NPO

- かもしかの会関西
- 立命館大学奇術研究会マジックプレイヤーズ
- 在住外国人のためのボランティア情報誌「みみタロウ」

伝言板 3月・4月

センターインフォメーション

あうみ未来塾第2期生研究成果発表会
ブックレット発行
ほか

March
No. **28**
2002・3

淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

シリーズ～NPOへの素朴な疑問～

NPOって ナニ？

第6回 企業の社会的責任と社会貢献

不況の嵐が吹き荒れる中、失業率もかつてないほど高くなり、社会不安をかき立てている。そうした中、日産自動車のカルロス・ゴーンは、日産再建の切り札としてもはやされている。経営再建のために人の首を切ることは易しいし、それが切り札だとすれば非常に寂しい話だ。昨今の経済学者は、こうした風潮を肯定するだけでなく、社会に必要以上の競争を煽って、不安を先導している。

日産と言えば、ユニークな社会貢献活動がある。「未来への投資」という題目で行っている「日産ラーニング奨学金制度」である。NPOで仕事をすることを希望する学生を公募、選抜し、その仕事の報酬として奨学金を支給するもので、福祉・環境・国際交流・文化・芸術などさまざまな分野のNPOが、この制度に協力している。社員をクビにしなければならない時代に、こうした制度をつくるということは、逆の見方をすれば、日産は社会貢献をよくやっていると評価されているのである。

では、県内の製造業に勤める人から聞いた話と比較してほしい。その人の話では、その会社の社長は従業員とその家族を大事にしている、これまで何度となく苦境のときも、従業員を解雇することなく乗り切ってきた。しかし、それでも今回の不況を乗り切るのは困難なようで、雇用確保と会社の行く末とを考え、思い悩んでいるとのこと。この会社は、社会貢献ということをしているわけではないが、雇用を確保することにより、企業としての社会的責任を果たしていると言えるのではないだろうか。

ある企業の社会貢献担当者が「企業は法律を遵守するのはもちろんのこと、社会的な責任を果たし、その後で余力があれば社会貢献すべきだ」と言うのを聞いたことがある。この不況時代に大量リストラし、一部ポーズ的な社会貢献活動を行うことが果たして企業としての社会的責任を果たしているのだろうか。奨学金制度によって、インターンできる学生もタダで人を使えるNPOもそのメリットは大きいですが、その裏には家族を抱え、生活不安に怯える人たちが多くいるのである。

こうした企業の対応は、NPOにとってはいいことかもしれないが、社会にとってはマイナスでしかない。目先のことだけにとらわれているようでは、NPOにとっても未来が明るいとは言えないのではないだろうか。

(市民熟人)

めとてとねっと

市民&企業&行政ねっと

石けんづくり一筋25年—「ものづくり」をする人間なら、最初から最後まで責任を持つのがごく当たり前のことだと思います。

株式会社マルダイ石鹸本舗



「石けんづくりにはロマンがある。」と中井忠男社長 (55)。

中井社長と石けんの出会いは27年前に遡ります。「石けんを売らないか」という前社長の誘いに、「合成洗剤が売り出されたという時代に、面白い」と引き受けたものの、全然売れずに諦めかけていた頃でした。折しも昭和52年5月27日に琵琶湖で初めて赤潮が発生し、合成洗剤の是非が取り沙汰されるようになったのです。琵琶湖を守る県民意識の高まりと共に「石けん運動」が全県に広がり、全国に先駆け昭和55年には琵琶湖条例が施行、有リンの合成洗剤はすべて廃棄処分となりました。

マルダイ石鹸本舗では、すでに家庭から天ぷら油等廃食油の回収を手がけ、石鹸づくりを始めていたため、婦人会や市民活動団体から依頼が殺到。朝から晩まで1軒ずつ訪ね、わずかな廃食油回収に県内一円を廻る毎日…。そして、滋賀県で回収した廃食油100%を使用したリサイクル石けん「びわ湖」が誕生したのです。その後、行政や市民、生協等が力となり滋賀県の石けん使用率は急増、一時は70%を越す勢



合成界面活性剤・蛍光剤など一切使用していないので、人にも環境にも優しい。粉石けん「びわ湖」3kg750円など。

いでした。しかし、昭和60年頃をピークに減少の一途を辿り、今では10%を割ってしまいました。一方、他府県からの視察や講演依頼は続き、リサイクルの輪は全国的に広がっています。「ものづくり」にかけては最初から最後まで自分が責任をもつというのが中井さんの持論。幼い頃、川には生ゴミを餌とする糸ミズズやドジョウが住み、それを魚が餌とし、またその魚を人が釣って食べるという循環型の暮らしが当たり前であった古き良き時代が原点にあるようです。「自然を大切にす人達に集められ、自分のところまでやってきた」油を元に帰す仕事にロマンを感じつつ、「自然界のジャマにならないようアワとなり消えるように」と言い聞かせながら、石けんづくりを楽しむ毎日だとか。循環型社会を実践するマルダイ石鹸の姿勢は、環境の世紀に「人」が「もの」とどう付き合ったらよいかを教えているのではないのでしょうか。



1600リットルの廃食油が3トンの粉石けん生まれ変わる釜。油から地域の顔が見えてくるという。



県外では福井県三方町、三重県名張市などが廃食油回収・粉石けん使用に取り組んでいる。



(株)マルダイ石鹸本舗
大津市栗林町1-7 TEL.077-582-2102 FAX.077-583-2954

後戻りできない話

心をむすび* リレーエッセイ

私の周りには、色んな情報を提供してくれる人たちが集まるので、その話題を書く事にします。エネルギーの話です。私達がこうして快適に生活が出来るのは、皆さんもご存知ですが地球が何十億年もかけて生み出された資源があるからです。その資源をほんの一世紀足らずでかなりの量を消費してしまいました。一人当たりのエネルギーの消費量は個人差はありますが、生産量・物量・情報量・機動性など、いずれにおいても戦国時代の何千という家臣を従えた武将と同等かもししくは勝っているそうです。私達の生活をもし彼らに見せる事が出来たらなら、彼らは魔法かペテンにでも遭ったように混乱するでしょう。ちなみに私も最近、パソコンというモノを触るようになりました。戴きもののパソコンでしたので使い方が解らず、かなり動揺しました。昔の人にちょっと毛が生えたような私です。今現在、どの位の資源が残っていて、どの位で枯渇するのかが諸説あるそうなんです。もはや後戻りは出来ないうつです。快適な暮らしを超越すると一体どんなイベントが発生するのでしょうか? 個人的には楽しみです。



「クリスマス大津」
大森謙司さん

今回は「ころぼっくるの家」の赤坂康子さんです。

TOPICS

NPOと政策提言

NPOはこれまで行政や企業ができなかったサービスの提供を通じ、市民社会を創っていく役割を果たしています。同時に、その先駆性・多元性から、社会を変えていく役割も担っています。

社会を変えるため、NPOに期待されているのが政策提言です。これまで行政だけのもと思われてきた政策ですが、これからはその大きな部分をNPOが担っていくようになると思われます。

特定非営利活動法人NPO政策研究所理事長 木原勝彬きはらかつあきらさんに、NPOと政策提言についてお話を伺いました。



これまでの活動について教えてください

木原 東京から奈良に帰ってきて、都市計画道路の建設により歴史ある伝統的な町並みが壊されようとしているのを見て、町並みを保存しなければと「奈良地域社会研究会」を立ち上げました。町並み保存というのは簡単なようで、何をしたいのかわからないので、地域のお年寄りから「ライフヒストリー調査」と称する聞き取りを行いました。かつての奈良町の賑わいを聞きながら、まちづくりのイメージコンセプトを膨らませたわけです。活動の目的は、都計道路が通るから町並みをどうするか、道路をどのようにするかということだったのですが、実際は、町の歴史から生活から何から何まで拾いあげ、道路や町並みの提案の中に反映させていきました。私たちの調査は、行政の調査とは違って、市民ならではの思い入れのあるものをと考えていました。活動を始めた当初から、これか

らのまちづくりは、自分たちで調査・研究して提案する力を持たないと、行政と対等に渡り合えないと思っていました。

その当時から「提案」ということを考えられていたのですか？ 行政の受け止め方はどうでしたか？

木原 最初、市は戸惑いましたね。公共事業に對しての妨害、余計なことと捉えられている側面もありました。それに対して、反対ではなく、いかに質の高い道を作るかの提案だと主張しました。ただ行政側には、提案という前例がなく、受け止める術がない。だからそういう意味で嫌がられ、警戒されました。ですから、できあがった道路の最初の部分は大きしたことない。提案が全面的には受け入れられていないからです。もちろん、受け入れようとする人はいました。が・・・。

PROFILE



木原勝彬 (きはらかつあきら) さん

1945年奈良市生まれ。民間企業を経て、1984年、(社)奈良まちづくりセンターを設立、理事長に就任。1997年5月、NPO政策研究所設立、代表幹事・事務局長に就任。現理事長。1997年「NPOは日本の社会を救えるか」で読売論壇新人賞佳作入賞。その他、まちづくり・NPOに関する論文多数。

特定非営利活動法人NPO政策研究所

地域・コミュニティレベルにおけるNPO活動と行政活動、及び企業活動それぞれの関係領域における政策研究と形成、各セクターを超えた政策研究コミュニティの形成を目指して1997年に設立。

行政からはNPOがもてはやされていますが、NPOと行政との関係を見て、どういう点が問題だと思われませんか。また、行政は当時と変わりましたか？

木原 NPOは今、あまり余裕がありません。でも、そんな状態でも常に先駆的・先見の目を持たないといけないと思います。今後、行政とのパートナーシップという場面がどんどん増えてくる中で、何でもそうですが、相手をよく知らないといけない。パートナーシップは相手を相当知らないといけないと思います。行政の立場、仕組み、政策、行政職員の立場などを知ろうとする努力、理解しようとする努力と同時に、自分たちの弱みと強みを知るといふ謙虚な態度が大切だと思います。「己を知らずして」いい関係性はつくれません。行政システムそのものや行政職員の意識を十分に知ったうえで、そのシステムや意識をどう変えていくのか。正当な評価を得るためには、NPO側がきちんと調査なり提言なりをしていかないと理解が得られないと思います。

活動を始めた当時と今の行政は変わっているかと言われると、ほとんどの公務員、行政そのものの根幹は変わっていないと思います。それは議会が変わっていないからとも言えますね。行政に関して言えば、こちらから働きかけをしているから変わってきている部分もありますが、議会が変われば行政だけでなく市民も変わるで

しょう。

議会の話が出ましたが、議会はどのように変わっていいかと思われませんか？

木原 議会そのものが持つ本来の政策提案能力あるいは行政に対するチェック機能を果たしていただければ、市民・NPOは楽になる。今は、政治とか行政でミスをして、市民・NPO側でフォローしてくれそうだが、チェックしてくれそうだと安易に思われている面があるのではないだろうか。我々にはそれだけ力があるわけではなく、行政システムそのものが自己変革力を持ってシステムや仕組みを変えていく力を早く備えてほしいと思います。議会も同様です。議



「奈良町物語館」
まちを楽しくする情報発信基地として、伝統的な町家を修復し活用。

員自身が本来の観察力やチェック力を持つてほしい。行政・議会・市民、この3つがうまく回れば社会的なロスがなくなります。皮肉なことに、NPOの存在が高まっていく時は社会が大混乱している時ではないかと、ある種の自己矛盾を感じますね。

NPOが政策提言力をつけていくにはどうしたらいいでしょうか

木原 NPOは生活者の視点に立っているのです。地域や市民のシーズ・ニーズを押さえています。それは最大の武器です。それを積極的に社会へ提案し、政策へ結びつけていくことが大切です。NPO・まちづくり団体で大切なことが三つあります。一つは「思いは力なり」。思いはまちに對する愛着・使命です。二つ目は「知は力なり」。知は調査・研究能力、提案能力を言います。三つ目は「時は力なり」。すなわち、継続性です。時間をかけてやり続けていけば必ず芽が出て花が咲くと思います。これらを踏まえながらやっ

インタビューを終えて

現代の社会経済が抱える多くの矛盾を解決し、魅力ある21世紀の地域づくりをしていくためには、サービス提供型NPOの充実とあわせて、まさに地域の政策を自ら考えていく政策提言型NPOの果たす役割は大きいと思われま

私たちががんばっています！

NPO

どういうふうにしたら、もっとみんながイキイキと元気に暮らせるか—そんな素敵な夢を現実のものにするために、日夜奮闘しているNPOの皆さん。環境・福祉・子ども・まちづくりetc. . . . 滋賀県に新しい風をおくるフレッシュな市民活動をご紹介します。

野生動物と人間との共生をめざして

●かもしかの会関西

ニホンカモシカは本州、四国、九州の山岳地帯に棲み、一時乱獲などによって数が激減したことから、1955

年に天然記念物から特別天然記念物に指定されました。その後密猟が減り、カモシカの捕殺がほぼなくなったことから数が増え、同じ頃、植林が盛んになって、若木がカモシカに食べられてしまうという食害が問題になってきました。

979年にカモシカ食害防除学生隊として発足しました。

カモシカも生息でき、食害も防げる

手段として考案された、苗木にポリネットをかぶせる方法を、食害実態調査を経て実用化しました。日頃、自然と親しむ機会

の少ない都會生活者が、毎年8月に山に入り、植林された苗木ひとつひとつにポリネットをかぶせていき、翌年5月にはずす。こんな作業をはじめてもう15年になります。

「野生動物と都會にいる人間には全然接点がないように思われますが、そう

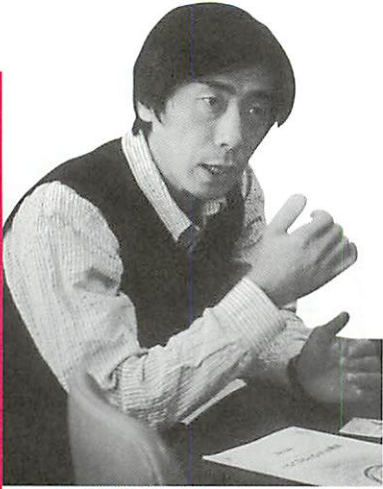


●土山町での「ポリネット防除法作業」風景。

じゃないんです。都會にいてもツクツクボウシが鳴けば、そろそろ苗木が食べられてしまうころだなと感じることができるんです。そうやって野生動物を社会の中に取り込んでいくことが大事なんです。それが人間と野生動物との共生に繋がっていくのだと思いますね」。

野生動物文化を築こうとしている高柳さんたちの活動は、いわゆる自然保護団体からみればマイナーではあるけれど、生活者から見ると、非常に分かりやすく、入りやすい人間と動物の新しい関係であるように思います。

(編集ボランティア 伊藤孝子)



●森林生物学の専門家であり、ご自身の研究を生かし、かもしかの会関西で実践活動する代表の高柳敦さん。

かもしかの会関西

代表：高柳 敦
連絡先：京都市山科区上野山田2-14
秋岡アパート1階2号 瀬川也寸子方
TEL & FAX：075-502-4255
携帯電話：090-882-66779 (高柳)
E-mail：serow@pure.ne.jp
URL：http://www.pure.co.jp/~serow/
設立：1979年
会員：100名(全国)

S P O T L I G H T

マジックでたくさんの人に喜んでもらえると、 ぼくら自身もうれしいんです。

●立命館大学マジックプレイヤーズ

「マジックプレイヤーズ」は、週に2回集まってマジックの研究や情報交換をしたり、春と夏には合宿を実施、また伝統のある他大学との交流会で技を磨いています。「マジックを見せて」とお願いしてみると、さっとウエストポーチからリングを取り出し、つなげたり外したり。その鮮やかな手つきに魅せられ、仕掛けは全く分かりません。



●華麗なるステージに観客も釘付け!

このように部員はカバンにいつもトランプなどを忍ばせておき、時間があれば練習しているのです。

彼らのステージは大学内だけにとどまりません。地域交流活動として、滋賀・京都で広く活躍しているのです。子ども会・老人会・企業・中学校・高校・幼稚園などでひっぱりだこ。たまにお礼をもらうこともあります。基本的にボランティアとして行い、年間30回を越えるそう。「子どもたちは大はしゃぎしてくれますし、お年寄りの方にも喜んで頂いています。時には失敗することもあります。それも愛嬌と

楽しんでもらって…。やりがいがあります」。

地域交流活動が評価されて父母教育後援会から補助金をもらっているものの、マジック用のグッズや衣装、マジックバーへ研究に行くのも自前。ボランティアとはいえども、出張の交通費だけは頂いているそうです。今後は学内外でもっと知名度をあげたいとのこと。

立命館大学奇術研究会 Magic Players (マジックプレイヤーズ)

代表：米田謙治
連絡先：立命館大学BKC学生センター
TEL&FAX：077-561-3920&077-561-3954
設立：1994年
会員：20名

人を心から楽しませるマジック。ボランティアっていろんな形があるんだ、と改めて感じました。
(編集ボランティア 幡 郁枝)



●舞台衣装のスーツも板についた部員のみならず。芸達者ぶりが分かりますね。

もし、皆さんが突然海外で暮らすことになったら、言葉の壁からくる生活の不安はありませんか。日本語の情報誌があったら、どんなにうれしいでしょうか。



●「みみタロウ」の編集ボランティアの皆さん。左から、王さん(中国)、竹屋さん(外国人相談員)、凌さん(中国)、ホルヘさん(イタリア)、伊藤さん(外国人相談員)。

来日8年の中国人の凌さんは「日本で自分が役に立っているのがうれしい。これから同世代の日本人の友達を作りたい」と、またイタリア人のホルヘさんは、「社会参加することで日本を一層知ることができた。またこの場で日本人に伝えたいことが表現できる」と話してくれました。編集ボランティアの多くが、自分の時間を少し割くことで、同じ国の人に何か言いたい、という動機で参加したとのこと。

滋賀県にも大勢の外国人が住むようになった昨今、日本人から積極的に不安を抱えている外国人の方々を心を開いていく必要があるのではないのでしょうか。
(編集ボランティア 清水奈美)



●みみタロウフェスタでのダンスパーティー(ピアンカ内)。県内在住外国人の交流の場となっている。

この「みみタロウ」は、滋賀県内の生活情報を7カ国語で発行し、市町村役場や図書館などで無料配布しています。支えているのは約30名のボランティアで、現在12、500部を隔月で発行しています。内訳はポルトガル語、中国語(台湾語、大陸語)、スペイン語、ハンゲル、英語それに日本語で、日本語版には日本語を勉強中の外国人のために、ルビがふられています。お



●7カ国語で訳され、1回12500部発行で年6回(2、4、6、8、10、12月)発行されている「みみタロウ」。購読料は無料。

ボランティア情報誌「みみタロウ」

世話人：竹屋久美子
連絡先：大津市におの浜1-1-20
ピアザ淡海2F 滋賀県国際協会内
TEL：077-523-5646
FAX：077-510-0601
E-mail：mimitaro@mx.biwa.ne.jp
URL：
http://www.biwa.ne.jp/siamail/advice/
mimitaro/hyoushi.html
設立：1995年
会員：30名

言葉の壁を乗り越えて、生活情報を発信

●在住外国人のためのボランティア情報誌「みみタロウ」



編集後記

かもしかの会代表の高柳さんは、京都大学森林生物学の先生、鈴鹿や芦生の森で熊やシカを探して歩く毎日とか。ちなみに携帯電話のニックネームがクマシカ携帯っていうそう？？です。
(編集ボランティア 伊藤)

英語のできない私が、好奇心で、昨年の夏ミシガン州のホームステイを受け入れました。身振りと言葉の英単語で大騒ぎでしたが、ツアーの旅行以上に異国文化に触れることができました。次はどこの方が来てくれるか楽しみです。
(編集ボランティア 清水)

初編集ボランティアは立命館大学に何ってインタビュー。「彼女は手品見てどんな反応？」と聞くも真っ赤になった人も。合コンで盛り上げ役としての人気はあっても会が終わったらハイそれまでよ、だとか(笑)。取材後キャンパスを歩くと学生時代に戻った気分。でも当時ボランティアなんて考えてみたこともなく、自分のことだけでした……。とほほ。
(編集ボランティア 幡)

木原さんのお話を伺っていて、NGO参加拒否に関する外務省のゴタゴタがふっと頭をよぎりました。中央も地方も「協働」とは言っているも、本質は…。ただ、ワイドショーに取り上げられたので、「NGO」と言う言葉が世間により知られるようになったことはよかったのかも。
(事務局 川勝)

利用できます

会議室・印刷機・パソコン
貸し出し施設リスト

会議室や印刷機・パソコンが利用できる県内の公共的施設のリストを作成しました。そのダイジェスト版を、現在ホームページで公開しています。詳しいものをご希望の方は、切手200円分を添付した返信用封筒(A4版22枚が入るもの)に郵便番号・住所・氏名をご記入の上、センターまでお申し込み下さい。

ブックレット発行!

Vol.15「新しいコミュニティとは?~おうみ市民活動交流会2001記録~」
Vol.16「NPOがつなぐ学校と企業」小川雅由さん(こども環境活動支援協会事務局長)
Vol.17「コミュニティでのしごとづくり」中村順子さん(NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸理事長)
各300円(送料別)
※ご希望の方はセンターまでお申し込み下さい。

おうみ未来塾第2期生研究成果発表会

日時:3月16日(土) 13時00分~
場所:大津市生涯学習センター視聴覚室
※おうみ未来塾2期生がグループ研究の成果を発表します
参加費:無料
参加ご希望の方はセンターまでご連絡下さい。

おうみ未来塾第4期生募集

あなたも「地域プロデューサー」をめざしませんか?
受講期間:2002年6月から2004年3月までの2年間
募集人数:25名程度
応募資格:18歳以上で地域の課題に主体的に取り組む意欲のある方
受講料:2年間で2万円
応募締切:4月14日までに応募書に必要事項記入のうえセンターまで
※募集に関する詳しいことは、センターまでお問い合わせ下さい。

淡海ネットワークサロン

松本創さんもやってくる!
「しゃべり場 in しが」においてよ。
3月10日(日) 13:00~15:00
県民交流センター201会議室 ◆参加費300円
お申し込み、お問い合わせはセンターまで。

Voice ヴォイス

テロ報復と市民社会<PART II>

「災いを転じて…」と言えば、多くの犠牲者に申し訳ないのですが、米国の多発テロが、われわれ市民社会にもたらした覚醒効果は絶大なものでした。

ブッシュ大統領は、このテロを「新しい戦争」と定義づけることで、いち早く同盟国のネットワークを形成しました。この定義にはテロという犯罪行為に軍事行動で対応することの正当性が込められていたからです。

一方、市民社会の反応はどうだったか。ミサイルと食料(難民支援のための)が同時に降ってくるという異常な光景に目を奪われることなく、大統領が説く「新しい戦争」の本質を見極めようとして活発な議論を展開してきました。

なぜアメリカが憎まれるのか?テロの背後にあるものは?インターネットの世界をのぞくと、実に自由で多様な市民の発言が地球を駆けめぐっています。

テロの根源として世界の不平等を衝く意見の多くは、グローバリゼーションが世界に投げかける影として、貧富の格差や社会的な不安の増大を指摘しています。共感を覚える分析ですが、それがテロを正当化することにはつながらないことは言うまでもありません。

指摘される貧富の格差は正や、そこから生じる問題は、国境を越えたODA(政府開発援助)やNGO(非政府組織)などによる官民一体の平和努力によって解決されなければなりません。

「テロと戦う」ことが国家間ネットワークの<タテマエ>だとすれば、市民社会のネットワークには、<ホンネ>で「平和を築く」役割が求められているのです。

それにしても、たいへんな変わりようですね。あの湾岸戦争ではマスコミを通して流される「管理された情報」と、映画の戦争シーンを思わせるテレビ中継を前に、多くの人たちは観客気分でした。ほんの10年前ですが、私もそんな傍観者の一人だったのです。

市民社会が目覚ましい変化を遂げたのは、市民が情報とメッセージを共有できるようになったインターネットの活用が大きく寄与しています。だとすれば、今後の課題として、情報を読み解く能力<メディア・リテラシー>の重要性を痛感せずにはいられません。

テロの目的の一つは「テレビを通してその存在を示すため」との指摘があるくらいですから…。
(大津市・IT)

学生の特権?

学生インタビューを違和感を覚えながら、それでも最後まで読みました。きっと読者から賛否両論が寄せられるでしょう。良い編集企画だと思います。感情論で言いますと、学生の分際で何を言ってるんだい、といった気分です。自分の学生時代を振り返ってみても、いろんな社会活動をしました。新聞記事になることはあっても、世間から評価されたという記憶はありません。世の中はそんなもんだと思います。文中に大人に利用されているとありましたが、どんどん利用されて、発言力を強めたらいいかでしょう。それから地域に根を持たない自由な立場でものごとを考えることができるのも、学生に与えられた特権です。これは無責任の特権ですから、発言するのは自由でも、聞いてはもらえません。座談会を読んで久々に熱くなりました。

(石川県の方からの便り)



淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

TEL 520-0801 大津市におの浜1-1-20
TEL 077-524-8440 FAX 077-524-8442
http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net
E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日(12/29~1/3を除く)
火~金曜日/9:00~19:00 土・日曜日、祝日/9:00~17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
・各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、女性センター、文化産業会館、陶芸の森、草津コミュニティ支援センター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、さきほホール、滋賀銀行、郵便局(ボランティア貯金窓口)、公民館など



©無断転載を固くお断りいたします。

